

これがオススメ! 読み聞かせ本

低・中学年向き

学習指導要領で読み聞かせがすすめられて、読み聞かせについてのたくさんの本が出版されています。また、ブックリストもたくさん出ていますが、さて実際に子どもたちに読もうと思うと、どの本がいいのか、どうやって読んであげたらいいのか、困ってしまいます。「これなら楽しく読み聞かせができるよ」という本と読み方を紹介しましょう。

兄弟・姉妹というのは、本人たちにとって、やっかいな存在であると同時に、大事な存在でもあります。

私にも妹がいますが、姉の私のことになるとライバル心丸出しでした。人懐こく社交的で友達が多かった妹は、姉の遊びにも加わりうとしてきたものです。妹を振り切ろうとして、自転車をこぐ私の後ろを走って追いかけてきたときの光景は、今も心に焼きついています。

迷惑半分、心配半分。そんな昔のことも思い出されるので、この本に出会った時は、「ほんとはんと、その通りー」と、懐かしさがわいてきました。

この本を子どもたちに読み語っている最中も、それぞれが体験している兄弟・姉妹のこととあまりに似ているせいか、笑ったり、隣の子にこっそり耳うちし



ぼくのかわいくない いもうと

浜田桂子／作・絵
(ポプラ社)

たり、相づちを打ったりと和やかな空気が流れていきました。

読んだ後も、「先生、ぼくの妹はねえ」と体験談が次々と持ち寄せられ、子どもたちの会話がはずみます。聞いていると、どの子も兄弟・姉妹に愛情をもって話しているんだなと感じられ、クラスが一層和やかな雰囲気包まれます。

兄弟・姉妹というのは、面倒で生意気で、時にはいなければいいと思うこともあるけれど、やっぱり大事な存在だということとどのページからも感じたのでしよう。子どもたちの日常が隅々にまで描かれているので、読み語りを聞いた後も、自分で手に取って読み直してみたり、じっと絵に見入ったりする子どもいました。